

年譜を掲げ、第壹篇以下に於てはその幼時、父天隆院宗行公の事蹟より元服、禁封並びに活世間に於ける人才登用、國內巡視、治水工事、殖産工藝の奨励等を叙し、中巻には皇室との關係を記してその祖母天岳夫人の伏見宮邦永親王の王女なりしことより其の家庭已に尊王の氣風他と異なるものありとし、公が朝廷の爲めに益すところ少からざりしを叙し、武術の奨励を叙して茶道に及びその傳統茶書の蒐集研究、不昧流の創立並に退隱後茶般一味の眞天地を樂みたる大崎名園、孤蓬庵、茶友錄著述等の事に亘りて詳述するところあり下巻は美術の保護と公の禪學佛學書道等廣く教養の方面と其逸事を記し、卷末不昧公百年忌記念大茶會記を附收せり其資料は主として松平家所藏のものに取りたれども尙多方面の蒐集にもつとめて正確を期し、挿畫には肖像筆蹟及び不昧好み茶器の類を多く收め、印刷裝幀共に高雅にして不昧公傳記として遺憾なきものなるべし(非賣品)(西田)

●尾參遠郷土史論

日本歴史地理學會編

昨夏三河國豊橋市に開催せられたる日本歴史地理學會夏期講演會の講演筆記を修訂し、之に同時の名古屋市に於ける講演の概要を合せて編纂せるものにて、體裁はすべて同會が從來出版せる時代史論等と同じ。本文六四〇頁ありて、收むる所、上古史(文學博士喜田貞吉氏)、奈良平安朝史(文學博士吉田東伍氏)、鎌倉及び南

北朝史(文學士大森金五郎氏)、室町時代及び戰國時代史(文學士渡邊世祐氏)、徳川時代史(文學博士辻善之助氏)、幕末維新史(文學士岡部精一氏)、尾州の産業發達(文學博士吉田東伍氏)、明治維新と尾張藩(文學士岡部精一氏)、尾參遠地方の史蹟研究に就いて(文學士堀田璋左右氏)、東海道中(文學士藤井甚太郎氏)の十編、何れも平易に我が國各時代の歴史を叙し、當時の尾參遠を説明せんと試みたるものなるが、時代史の内には單に一般史の記述に止り、殆んど尾參遠と交渉なければ、稍表題と相添はざる憾あるも見ゆ。郷土史論として最も注意すべきは「奈良平安朝史」と「室町時代及び戰國時代史」にして、前者は氏族、姓氏より初めて郡郷の制度、人口、田制、神社、寺院、産業等種々の方面より當時の尾參遠を觀察し、後者は此の地より起れる英傑が我が歴史上に活動せる迹を記述せるものにて、經濟史上より縱横に論述したる「尾州の産業發達」と共に併せ讀むべきものなり。其他に於ては「上古史」は古代史に關する新研究を平易に述べ、「徳川時代史」は其の後半に種々の方面より平民勢力の發展を論じたり。東海道中は大名の道中、朝鮮信使の見たる道中、外人の見たる道中等種々の方面よりその有様を平易に説明したり、又卷頭に其の地方に關する數葉の史蹟寫真版を載せたるは興深けれども、たゞ本文中隨所に地理を論じ郷土を説けるにか、はらず、之に對照すべき地圖を

缺けるは惜むべし。(仁友社發行、價二〇〇)(梅原)

●日本歴史圖錄 第壹輯、第貳輯

國史を讀むもの、常に不便を感ずるものは其參考をすべき適當なる歴史圖錄に乏しきことなるべし、本圖錄は此の缺陷を填さんために企圖せられたるものにして、高橋健自氏を編輯主任に斯界の諸大家を顧問として、歴史の印象を明らかならしむべき遺物遺蹟等の圖版を選び逐次刊行せんとして、今回其第壹及び第貳輯の發行を見るに至りしものなり。第壹輯は拾五枚のコロタイプ版及彩色版一葉を含み、其中には藤原時代貴族の遊樂の狀を偲ぶべき「駒、競行、幸繪詞」の一部を始めとし、神武天皇陵に就ては正面及側面の寫眞圖、文久三年勅使參向圖、修陵碑拓影等を蒐め、又埴輪の圖に於ては數種代表的のものを選び、奈良朝時代の樂器にては笙篳、阮咸、篋及竿等を表はし。其他空海、平治亂、源賴朝、大坂陣、朱印船、鎖港談判使節、元祿風俗、靈法制定、神樂、石燈籠等各種方面の事物に對して興味ある圖錄を收めあり。第貳輯に於ては、鎌倉時代の射藝として「男衾、三郎繪卷」の一部をとりて彩色版にせるを初めとし、以下仁徳天皇陵に關するもの數圖、鳥毛立、女屏風、後三年の役、鳳凰堂の各部より天主教修好條約、彰義隊等に關するものに及び凡て七十二個の圖版あり。第壹、第貳輯共に別に三十餘頁の解説書を附して各圖に就いて親切なる説明

を施せり。總じて其の材料の選擇及び各圖の配當に於て編輯者の苦心の察すべきものあり、只一葉の中に關連する數箇の圖版を收めんとしたるものありて爲めに圖の稍々小に過ぎたる如きものあるは、費用の關係もあるべけれど、此種圖錄としては望外の感を懷く者少からざるべし、然れども本圖錄は我國文化の各方面に互り信據すべき材料によつて參考圖を提供せんとするものにして世上容易に見るを得ざるものをも集めたるを以て實に國史の教育に於て其用多きのみならず、一般家庭に於ても好尚鑑賞の料たるを失はざるものなり。(東京市麴町區元園町歴史參考圖刊行會發行、非賣品、會員頒布〔西田〕)

●祖先祭祀と日本法律

法學博士穗積陳重著 穗積殿夫譯

本書は著者が明治三十二年羅馬にて開催の萬國東洋學會席上試みたる講演の原稿 Ancestor Worship and Japanese Law の訂正増補第三版の邦譯なり。凡て三編十六章及び附録二編より成り、緒論には世界に於ける祖先祭祀の過去及び現在を叙し、第一編祖先祭祀概論には祖先祭祀は父祖に對する敬愛が其起因にして、又社會生活の起原は實に祖先祭祀に外ならずと論じ、第二編日本に於ける祖先祭祀には日本に皇祖の祭祀と氏祖の祭祀と家祖の祭祀の三種あるを叙し、第三編祖先祭祀と法律の條には日本の政治